

「ありがとう」

高野 遥花

あの時から私の生活は一変した。冷たいゆか。かべの間から入ってくるすきま風。度重なる大きな余震。避難所での生活は、普段では考えられないものだ。私達旧山古志村の村民は、中越大震災のため長岡市の避難所で一日一日をすごしていたのだ。

私は、大手高校の体育館でほんの一部の友達と毎日を送っていた。私が生活を送っていた体育館は、支援物資などがたくさん運ばれてくる所で、人も多かったです。支援物資や食事の配布は、人が多く大変だった。ぬる時間モテレビも自分の思い通りにいかず、周りの人を気にかけないといけない。そして毎日同じ生活を送るのは、ひまどしかたなかった。

そんな私を救ってくれたのがボランティアの人だった。私が大手高校から工業高校セミナーハウスに移動した日、新しいボランティア

アの人か来た。その人達はとても親切で私達
 はとても助かった。自衛隊が作ってくれたご
 はんを盛ってくれたり、お年寄りの分を運ん
 だり毎日お世話になっていた。支援物資の配
 布などもボランティアの人のおかげでスムーズ
 になつた。そして向よりひまでしかたなが
 った私達を、楽しませてくれた。パソコンで
 ゲーム対決。一緒に散歩。トランプやオセロ。
 宿題も教えてもらった。毎日楽しくてしか
 たなくなつていった。

山古志小学校

ボランティア以外でも、支援物資や手紙。
 小林幸子さんなどの有名な人か来てくれたこ
 と。どれも私にはうれしくてしかたなかった。
 そして今、私達加ここにいるのは、ボラン
 ティアの人や全国からの支援という支えか、
 あつたからだ。今でも、ボランティアの人か
 支えてくれている。その人達のためにも、私
 は山古志復興のためになることを少ヒあつ
 やつていきたい。そして、伝えたい。
 ーありかとう。